

**県 外 派 遣 報 告 書** （社）栃木県バスケットボール協会 審判委員会

大会名	令和6年度関東高等学校女子バスケットボール大会	開催地	東京都 国立市・立川市
報告者名	有坂 明子・慶野 芽以・関 南実	派遣期間	6月7日(金)～6月9日(日)

**6月5日(水)審判研修会**

講師	村上 恵美 氏(神奈川県) 坂 美佑紀 氏(茨城県) 大坪 綾音 氏(千葉県)
会場	zoomミーティングルーム

**【指名審判員・レクチャー】**

○坂氏・大坪氏より「ヘルプディフェンスについて」

●いくつかのケースでこれまではセンターが判定していたものを、リードが判定することになる

→背景として

- ・リードはヘルプディフェンスが横に動いているかどうかを判定するアングルがとれる
- ・センター(もしくはトレイル)にとって、いきなり視野に入ってくるヘルプディフェンスの現象を判定することは難しいケースがある(元々のマッチアップペアを長く見ていることが多いため)

●判定のポイント

- ①誰のプライマリエリアで起きたか(リードorセンター)
- ②誰がそのディフェンスを一番長く見ることができていたか
- ③リードはヘルプディフェンスレベルより下にいるディフェンスを把握する
- ④ペイント内で生じたディフェンスファウルのうち
  - ・3線などのヘルプディフェンスの接触→リードプライマリ
  - ・プライマリマッチアップ(ボールマンにマークしている元々のディフェンス)はこれまで通り、そのプライマリのレフェリーが判断

ヘルプディフェンスレベル  
フリースローレーンの一番高い位置にあるハッシュマークを結んだ線。これより下に位置するヘルプディフェンスをリードが把握する。

※ペイント内で生じる全てのケースがリードではない！

- ⑤憶測で吹かない
- ⑥センターはセカンダリとして判定に参加
- ⑦ペイントの中に入る動きだけでなく、ペイントからルーズする(広がる)ことでアングルをとることも必要
- ⑧オフェンスの肘などへの判定は、センターやトレイルからのアングルがよく見えることもある
- ⑨トランジションでは、ヘルプディフェンスは存在しないため、まずリードが1番手  
リードが鳴らなかったらセンターがコールする

○村上氏より「慮る」

慮る(おもんばかる)・・・相手の事情や周囲の状況について、十分に思いを巡らせること  
→クルー・コーチ・選手・TO・観客・大会役員など、試合や大会に関わる方々への気遣いを大切に  
相手の思いや気持ちを尊重することも大切に！クルー内でもお互いのリスペクトを！

6月8日(土)

報告者名:有坂 明子

審判員名	CC 藤本 梨紗(神奈川県) U1 有坂 明子(栃木県) U2 河内 千沙(東京都)
カード	Aブロック1回戦 佼成学園女子高等学校(東京都) vs 桐生市立商業高等学校(群馬県)
<p>・プレゲームカンファレンスでは、ガイドラインの確認とベーシックなメカニクス、ヘルプディフェンダー、プライマリを確認してゲームに臨んだ。</p> <p>・ゲームの入りからトラベリング、スクリーン、3秒ルールなどクルーとして共有でき、ゲームの方向性をはっきり示す事ができた。</p> <p>・ベンチからのアピールがあったケースも、プライマリのレフェリーがコミュニケーションをとって大きなトラブルもなくゲームを終えることができた。</p>	

審判員名	CC 大坪 綾音(指名) U1 有坂 明子(栃木県) U2 須藤 れい(群馬県)
カード	Aブロック2回戦 東京成徳大学高等学校(東京都) vs 昌平高等学校(埼玉県)
<p>・試合終盤まで白熱した試合となったなかで、両チームのキーマンを序盤から早く感じる事ができたので判定に繋がった。</p> <p>・イリーガルなスクリーンが多い試合のなかで、クルーとして共有していればベンチからのアピールも防げたのではないと思われる試合だった。</p> <p>・自分の課題であるプレイヤー、コーチとの協力やコミュニケーションが取れたことが、トラブルを防ぐ要因になった。</p>	

報告者名:慶野 芽以

審判員	CC 竹澤 友美(埼玉県) U1 慶野 芽以(栃木県) U2 永田 裕衣(東京都)
カード	Aブロック1回戦 日本航空高等学校(山梨県) vs 実践学園高等学校(東京)
<p>・留学生を有するチームの試合であり、留学生まわりのプレーの整理や、ヘルプディフェンスの捉え方をクルーで確認した上で試合に臨んだ。</p> <p>・1ゲームを通して留学生に対するファウルや、留学生のファウル、3秒バイオレーションなど、クルーで協力しながら判定を続けることができた。</p> <p>・クルーでゲームを運営していく中で、自分が他のクルーのプライマリエリアでの判定に参加する際の見せ方について、クルーを慮る表現の仕方ができたら良かった。</p>	

審判員	CC 平原 勇次(本部) U1 青木 茉奈美(東京都) U2 慶野 芽以(栃木県)
カード	Aブロック2回戦 八雲学園高等学校(東京都) vs 土浦日本大学高等学校(茨城県)
<p>・自分のプライマリ内の判定に対して、より積極的に参加していく必要があった。</p> <p>・影響の大小のみで判断するのではなく、「選手が意図して(故意的に)行っている接触であるかどうか」も判断材料にすることが大切である。</p> <p>・どのような状況下においても、自分自身の判定を表現していく強さをさらに高めていきたい。</p>	

報告者名:関 南実

審判員	CC 内海 梓(山梨県) U1 関 南実(栃木県) U2 白銀 菜々(千葉県)
カード	Bブロック1回戦 県立横浜立野高等学校(神奈川県) vs 文化学園大学杉並高等学校(東京都)
<p>・プレゲームカンファレンスでは、クルーワークと今大会のレクチャーのテーマにもなったヘルプディフェンスに重きを置いた。</p> <p>・前半から積極的に力強くコールができた。特にミートのトラベリングを最初から判定し続けたため、両チームとも1試合を通してミートを意識するようになった。両チームともドライブが多い展開になり、ディフェンスの横からの接触やヘルプディフェンスが多く見られたが、エリアを超えて判定することなく、クルー3人がプライマリー内で判定することができた。その中でアクトオブシューティングの理解や、ノーコールで良かった判定もあった。ポジションアジャストやアングルの取り方を課題に今後も励んでいきたい。</p>	